

# 益田市学校施設整備計画

益田市教育委員会

平成 25 年 12 月

## はじめに

全国の学校施設では、地震時の安全確保のため緊急に耐震化整備が進められており、益田市においても、活断層など陸域又は海域で震源の浅い地震による震度6強の揺れが想定されている。

このため、子どもたちが過ごす学校施設の安全確保と地域の防災拠点としての施設整備が喫緊の課題となっている。

益田市の学校数は30校（小学校18校、中学校12校）で、その内およそ三分の一が、平成34年度までの10年間に竣工後50年を経過し、その他の学校についても順次年数を重ね老朽化等による改築時期を迎えることから、児童・生徒の教育環境の確保や財政的な裏付けなど、総合的・長期的な視点に立って、着実に施設整備を推進するための計画策定が急務であることから、この学校施設整備計画を策定するものである。

## 益田市立小中学校施設整備の方向性

本計画は益田市立学校整備計画審議会の答申を踏まえ、以下の4点を基本とし策定するものとする。

### 1. 耐震性能の低い施設から最優先に整備する。

学校施設の整備については、大きく老朽化に伴う施設整備と耐震化に伴う施設整備があるが、子どもたちが過ごす学校施設の安全確保と地域の防災拠点整備の観点から、耐震化に伴う施設整備を最優先とし、基本的には構造耐震指標の低い施設から整備を行う。

### 2. 整備手法としては、原則として耐震補強を優先に整備する。

整備手法の選定については、対象施設の構造耐震指標、建設年度、立地条件等を勘案し、耐震補強、改築（老朽化による危険改築と耐震化による不適格改築）、長寿命化改良、大規模改造の4つの手法から選定する。

### 3. 学校再編との整合性を図る。

施設整備については、学校再編の状況等との整合性を図り、地元の意見等も勘案しながら整備を進める。

### 4. 施設の維持補修等については、学校の実情に合わせて計画的に実施する。

耐震化に伴う施設整備と並行して、学校施設の維持補修や改善に係るものについても、施設の状況や学校の要望等、実情に合わせ適宜整備する。

## 益田市学校施設整備計画

	耐震補強工事、改築工事 (37棟)					
平成26年度 (9棟)	●高津小		●益田中		●益田小	●鎌手中
	校舎①1, 2, 3, 5 Is=0.44	校舎①6 Is=0.10	校舎① Is=0.47	校舎② Is=0.64	校舎④ Is=0.49	校舎⑥ Is=0.57
平成27年度 (8棟)	●益田中	●吉田小	●道川小	●高津小	●桂平小	●都茂小
	校舎⑤ Is=0.52	校舎② Is=0.52	体育館② Is=0.53	体育館⑧ Is=0.55	体育館⑤ Is=0.60	校舎① Is=0.61
	○真砂小・中					
	小体育館④ Iw=0.13	中体育館⑥ Is=0.24				
平成28年度 (6棟)	○真砂小			○中西小		○安田小
	校舎① Is=0.10	校舎②1 Is=0.10	校舎②2 Is=0.51	校舎① Is=0.20	校舎② Iw=0.32	体育館⑦ Is=0.21
平成29年度 (5棟)	○真砂中			○戸田小	○中西中	
	校舎① Iw=0.25	校舎② Iw=0.16	校舎③ Iw=0.24	校舎① Iw=0.33	体育館⑤ Is=0.52	
平成30年度 (3棟)	○鎌手中	○道川小	○西南中			
	体育館③ Is=0.26	校舎① Is=0.28	体育館⑥ Is=0.31			
平成31年度 (6棟)	○桂平小		○西南中			
	校舎① Iw=0.88	校舎③ Iw=0.32	校舎① Iw=0.70	校舎③ Iw=0.56	校舎④ Iw=0.56	校舎⑤ Iw=0.76

凡例

- :耐震補強工事の対象となっている施設
- :改築工事の対象となっている施設

※構造耐震指標 (Is値、Iw値) とは、震度6強の地震が発生した際の建物の強度、形状、経年劣化の要因等から評価される建物の耐震性能を表す指標。

◆Is値とは非木造施設の構造耐力上、主要部分の地震に対する安全性を示す数値で、0.6以上が倒壊の危険性が低いとされている。

◆Iw値とは木造施設の構造耐力上、主要部分の地震に対する安全性を示す数値で、1.0以上が倒壊の危険性が低いとされている。

・出典：建築物の耐震診断及び耐震改修の促進を図るための基本的な方針 (国土交通省告示第184号)

◇学校施設 (文部科学省) については、児童生徒等の安全性・応急避難場所としての機能性を考慮し、Is値0.7以上、Iw値1.1以上を超えることとしている。